

平成26年度授業シラバスの詳細内容

科目名(英)	スポーツビジネス・マネジメント概論 (Sports business management)		授業コード	E001151
担当教員名	竹田 隆行、後藤 幹雄、小牧 渉		科目ナンバリングコード	E10701
配当学年	カリキュラムにより異なります。	開講期	後期	
必修・選択区分	選択	単位数	2	
履修上の注意または履修条件	他の科目を履修していなくても、この科目だけで理解できる内容になっています。			
受講心得	スポーツに対しては、各人がそれぞれのこだわり、考え方を持っています。こだわりは必要ですが、そこから新しい考えは生まれてきません。ゼロベースで物事を考える重要性を学んでもらいたいです。 最初の講義に、受講ルールを説明します。			
教科書	スポーツ産業論 第5版(杏林書院)			
参考文献及び指定図書	スポーツビジネスマネジメント(日本経済出版社)			
関連科目	スポーツリテラシーⅣ、スポーツ経営学、地域とスポーツ			

授業の目的	<p>スポーツを楽しむ人々の年齢層が広がるとともに、スポーツやレジャーを楽しむ場所や機会が飛躍的に増大しました。「するスポーツ」とともに「見るスポーツ」においても旺盛な消費活動を展開するようになり、ビジネスとしてスポーツが注目されるようになりました。</p> <p>本講義では、スポーツビジネスとは何かを学習します。試験に合格することだけでなく、修得した知識をビジネスの場で適応、応用できる技術として身につけることを目標とします。</p>
授業の概要	スポーツビジネスの基本的な考え方を学びます。

○授業計画

学修内容	学修課題(予習・復習)
第1週：○第1回 スポーツビジネスとは何か スポーツビジネスとは何かを説明します。	課題・確認
第2週：○第2回 スポーツ産業の市場について スポーツ産業の市場規模及びその構造を説明します。	課題・確認
第3週：○第3回 スポーツ用品産業1 スポーツ商品産業について説明します。	課題・確認
第4週：○第4回 スポーツ用品産業2 スポーツ商品産業について説明します。	課題・確認
第5週：○第5回 スポーツ施設産業 スポーツ施設産業について説明します。	課題・確認
第6週：○第6回 スポーツサービス産業 スポーツサービス産業について説明します。	課題・確認
第7週：○第7回 スポーツとメディア産業1 スポーツメディア産業について説明します。	課題・確認
第8週：○第8回 スポーツとメディア産業2 スポーツメディア産業について説明します。	課題・確認
第9週：○第9回 スポーツ参加者を知る	

するスポーツについて説明します。	課題・確認
第10週：○第10回 スポーツファンを知る みるスポーツについて説明します。	課題・確認
第11週：○第11回 スポーツへの社会化と専門化 スポーツへの社会化と専門化について説明します。	課題・確認
第12週：○第12回 スポーツサービスと消費行動 スポーツ消費者の行動について説明します。	課題・確認
第13週：○第13回 スポーツ資格制度 スポーツ資格制度について説明します。	課題・確認
第14週：○第14回 フィットネスクラブのマネジメント フィットネスクラブのマネジメントについて説明します。	課題・確認
第15週：○第15回 これからのスポーツビジネス スポーツ産業と隣接する産業とのコラボレーションについて説明します。	課題・確認
第16週：期末試験 これまでの講義内容を試験範囲とします。試験時間は60分とします。	
授業の運営方法	(1)授業の形式 「講義形式」
	(2)複数担当の場合の方式
	(3)アクティブ・ラーニング
備考	

○単位を修得するために達成すべき到達目標	
【関心・意欲・態度】	これまで経験してきたスポーツ観にとらわれずに講義にのぞんで欲しい。
【知識・理解】	スポーツビジネスの現状理解を理解する。
【技能・表現・コミュニケーション】	
【思考・判断・創造】	スポーツ産業の可能性を感じて欲しい。そのためには、既存のスポーツ、あるいはスポーツ産業にとらわれないで欲しい。

○成績評価基準(合計100点)			合計欄	100点
到達目標の各観点と成績評価方法の関係および配点	期末試験・中間確認等 (テスト)	レポート・作品等 (提出物)	発表・その他 (無形成果)	
【関心・意欲・態度】 ※「学修に取り組む姿勢・意欲」を含む。	10点			
【知識・理解】 ※「専門能力<知識の獲得>」を含む。	70点			
【技能・表現・コミュニケーション】 ※「専門能力<知識の活用>」「チームで働く力」「前に踏み出す力」を含む。				
【思考・判断・創造】 ※「考え抜く力」を含む。	20点			
(「人間力」について) ※以上の観点に、「こころの力」(自己の能力を最大限に発揮するとともに、「自分自身」「他者」「自然」「文化」等との望ましい関係を築き、人格の向上を目指す能力)と「職業能力」(職業観、読解力、論理的思考、表現能力など、産業界の一員となり地域・社会に貢献するために必要な能力)を加えた能力が「人間力」です。				

○配点の明確でない成績評価方法における評価の実施方法と達成水準の目安	
成績評価方法	評価の実施方法と達成水準の目安
レポート・作品等 (提出物)	
発表・その他 (無形成果)	